2016 年度
アメリカフィンドレー大学春季研修
ベーシック・アニマルハンドリングプログラム
参加報告書

獣医学研究科　獣医保健看護学専攻
修士課程　１年　猿渡　菜美香

<はじめに>

私は中学生時代にオーストラリアでのホームステイを経験してから、将来は英語を使って仕事をしたいと憧れを抱くようになりました。大学に進学し、動物看護師になりたいという夢を持ってから、海外では獣医学生・動物看護学生等獣医療に対する教育体制が整っていることを知り、海外での専門分野の勉強に興味を持つようになりました。入学当初から本プログラムの参加報告会や説明会に参加していましたが、参加する勇気が出ず、今まで自分の思いを閉じ込めていました。しかし、大学在学中に留学しなければ後悔すると思いこの度参加を決意しました。今回の留学で学んだことをここに報告致します。

目次

- はじめに
- 平日の生活
- Friday Night
- 土日の活動
- ホームステイ
- 感想
- プログラム参加を考えている方へ
- おわりに

<平日の生活>

大学からシャトルバスに乗り 15 分ほどの場所に Western Farm がある。ここでは約 200 頭の馬を所有している。毎日 7:00～10:00 まで馬学科の学生と共に活動し、馬についての基本的な事柄を学んだ。具体的には給餌、厩舎の清掃、馬への接し方、もくし(馬を保定する道具)のつけ方、投薬方法、トリミング、乗馬について、馬術競技における馬の見せ方等である。毎朝のルーティンは給餌であり、私達はファームに到着すると、学生とペアになり、馬に給餌を行った。馬の健康状態によりサプリメントの投与や投薬も行った。給餌が終わると、学生と教師のミーティングが始まる。その後は日によって異なるが、上記に示した内容を行った。また、1 週間に 1 度、馬を専門とする獣医師が厩舎を訪れる。その際は馬の歯の治療や、エコーによる妊娠鑑定など診療を見学した。

午後は Dr.Kerns の授業を Pre-Vet クラスの学生と共に 2 コマ受講した。1 コマ目は Western Farm にて馬の安全な保定法や、鎮静の仕方やビタミン剤の投与、採血の仕方を学んだ。2 コマ目は大学で所有する家畜を多く飼育している Animal Science Building に移動して行われた。ここでは、ヤギの去勢、除角、ヒツジの去勢、除角、爪切り、ブタの去勢、耳刻、断尾、ウシの去勢、除角を行った。実際に実習を行うときは Dr. Kerns の下につく TA(Teaching Assistant)と呼ばれるサポート学生に教えてもらった。

乗馬

牧草の水分含量測定

お世話になった大学院生と

馬学科の学生と

トリミング

抜歯の見学

< Friday Night >

　これこそプログラムの醍醐味である。毎週金曜日は先生と生徒が教室で一緒にピザを食べた後、ネコの避妊や去勢、馬の採血、ワクチン投与、駆虫薬投与等の作業が行われる。私は留学期間中に 3 回のフライデーナイトを体験した。多い時には 200 頭近くいる馬の採血を学生と共に行い、終了時間は午前 1:00 を回ることもあった。驚いたことは、夕方～これだけ長い時間活動していても学生はとても笑顔で楽しそうに活動していることだ。学生が皆、活き活きと楽しそうに勉学に励んでいる。そして TA 学生を中心として学生のレベルが高い。実際に私達は実習等を基本的に TA から習った。同世代、同じ大学生として衝撃的であり、日本の教育体制としても見習うべき点が多々あると感じた。TA に教えてもらい自分で去勢手術や避妊手術を行ったことは忘れられない思い出となった。私のような獣医以外の学生にもぜひ体験してほしいと思った。

<Dr. Kerns Class & Friday Night>

ヒツジの爪切り

ブタの断尾

ネコの避妊

ウシの除角

ヒツジの去勢

縫合の練習

ネコの去勢

馬の採血

ブタの耳刻切り

ヤギの除角

Dr. Kerns & Pre-Vet 学生と

<土日の活動>

私達は屋外での活動も数多く行った。Columbus Zoo ではマナティ飼育のバックヤード見学をし、マナティが海中の象と言われていることや、レタスを食べること、妊娠期間が 12 カ月もあるということ等を知った。日本とは比にならないほどの動物園の広さに驚いた。動物病院を 2 カ所見学させて頂いたが、ここでも日本との違いに学びが多かった。日本では野生動物の保護と動物病院が同じ施設内に存在することは聞いたことがないが、野生動物の保護活動団体と動物病院が一つの建物の中にあり、野生動物の保護をボランティアが行い、治療を動物病院の勤務医が行っていた。獣医師は野生動物保全に興味があっても場所が離れていては普段の業務への負担を考えれば学びづらい。しかし、同じ施設内にあることで、業務と並行しながら学べる環境があるということに感動した。また、もう一方の動物病院では動物看護師(VT)が獣医師と同等に活躍しているのが目にとまった。動物病院内の案内をはじめ、症例の紹介、助手を行いながら手術の説明等多くを VT が行っていた。これは動物看護学生である私にとって鳥肌が立つような感動であった。また、メガファームの見学では 1 度に 100 頭以上の搾乳を行えるロータリーパーラーに衝撃を受け、アメリカの大規模経営を目の当たりにした。他にもネコカフェ(Eat Purr Love Cat Cafe)や動物保護施設(Humane Society Hancock Country)の見学させて頂いた。その中で共通して感じたことはアメリカは動物の保護に強い関心がある国であるということだ。日本の保健所というと、硬いコンクリートの小屋があり、そこに入れられてしまえば安楽死が待っているというイメージがあるが、アメリカでは決してそうではない。犬・ネコそれぞれが居住しやすいよう工夫されており、新しい飼い主との面会部屋のようなスペースが設けられていた。このようなアメリカと日本の動物への体制の違いを見れたことは大変勉強になった。

マナティ

オペ見学

動物病院

乳牛の牧場

巨大ロータリーパーラー

ネコカフェ

ネコカフェにて記念撮影

動物病院にて

<ホームステイ>

私は Pre-Vet1 年生の実家にお世話になった。彼女の実家は家族で経営する酪農家であり、1 泊 2 日という短い日程でのホームステイであったがたくさんの経験をさせて頂いた。家の目の前にある乳牛を飼育している牛舎の他に、少し離れた場所には肉用にするホルスタインのオスを飼育している牛舎もあり見学案内して頂いた。また、ビートやコーン等を収穫する際や、ウシの餌を運ぶ際に使用するトラクター等多くの機材を見せて頂いた。家族の皆さんとはショッピングや、外食、DVD 鑑賞やお菓子作りを楽しんだ。

お世話になった学生と

巨大な農業機材

メープルシロップ生産現場見学

牛舎

ホストファミリーと一緒に記念撮影

<感想>
　何年も憧れていた海外、プログラムということもあり感じたことは山ほどある。滞在期間中は毎日ハードなスケジュールであったが、疲れも吹き飛ぶくらいに楽しいと思える毎日であった。日本では感じることができなかった充実感を味わうことができた。フィンドレー大学で出逢った学生、お世話になった先生方には勉学のこと以外にもたくさんのことを教えて頂いた。今回の経験はこれからの自分の人生に大きく影響を与えるだろう。このような素晴らしい体験ができたことを嬉しく思う。

I had a wonderful experience in Findlay. I got the courage to proceed towards my dreams. I will make use of the experience in my life. Everyone I met here is my treasures. I love University of Findlay and Findlays！　I hope to see you again and I want to visit America.

<次に参加する人、参加を迷っている人へ>
　もし参加することに迷っている人がいるなら絶対参加するべきだと思います。期間を問わず、留学するとなると誰しも語学力や現地での生活に不安を感じることはあると思います。実際に私自身、コミュニケーションの部分では自分の力不足を痛感しました。しかし、一緒に参加した 5 人のメンバー、そして現地の学生との交流が私の中にあったネガティブな感情を吹き飛ばしてくれました。やらなきゃいけないことはわかっていても今までなかなか本腰を入れることができなかった英語の勉強ですが、今はとても前向きに取り組もうと思えています。実際に現地に行くことで、実際に自分が取り組むべきことを見つけることができました。
　プログラムの実習内容は主に家畜を使用した実習ですので、専門的な知識は多く知っておく必要があります。日本語での知識がある状態とない状態では英語で説明された時に理解するスピードに差が出てきます。私は学部生時代に犬

猫の勉強はしていましたが、生産動物を学習する時間は少なかったので理解するのに苦しみました。しかし、日本にいる間に事前学習をすることで十分カバーできると思います。

私は看護学類卒ですが、実際にネコの避妊手術をしてみて、手術は想像していた以上に神経を使うことや、一人前にできるようになるまで時間がかかることがわかりました。見学だけするのと実際にやってみることは大違いです。将来は動物看護師をして臨床現場で働くことを目標としていますが、今回の経験で、改めて動物の基礎の勉強をしよう、そして動物はもちろん獣医さんの気持ちにも寄り添える動物看護師を目指そうと思いました。日本ではできない経験を学類を問わずたくさんの人に経験して欲しいと思います。

<おわりに>

今年度のアニマルハンドリングプログラムにおいて多大なるご支援を頂戴しました酪農学園大学エクステンションセンターの皆様、フィンドレー大学の関係者の皆様、現地でサポートして頂きましたフィンドレー大学学生に心より感謝申し上げます。

フィンドレー大学学長 Katherine Fell 氏と